

林曼麗 主編  
物華天宝

Old is New 新の歴史のガイドブック

〈国立故宫博物院・二〇〇七年〉

ISBN 978-957-562-516-0

いうまでもなく、中国芸術品の最大の収蔵機関は台北故宫博物院である。交通の便は、飛行機を使えば国内移動と大差はないし、短期滞在ならビザも不要なので、思い立てば、数時間後に台北の街角に降り立つことも不可能ではない。

しかしこれまで、故宫博物院を利用するには大きな障碍があった。それは、故宮の受け入れ態勢が、我々日本人にとって十全ではなかったことである。同文ゆえに大まかな理解は可能であっても、歴史的な文脈から、細かな技法にいたるまで、作品をめぐる様々な情報の入手は中国語を知らぬ身にはなかなか困難であった。その点、日本語解説が展示室内に設置されているルーブル美術館にも劣っていたといっ

てよい。また全般に、所蔵品数に比して展示スペースが十分でなかったり、展示方式・分類にもなじみにくい部分があるなど、観覧者全体に対して不便な点もあった。展示物の優秀さゆえに、不満を忍びつつ「拝観」していたといってもよい。

その故宫博物館が二〇〇七年、リニユール・オープンした。展示方法が、分野別から時代順を中心とし、かつ分野のまとまりも勘案したものになつて、時代相を理解しやすくなつた。また小企画展が随時開催され、個別の展示品を、脈絡をもつて理解することが容易になつた。

しかし我々にとって最大の朗報は、日本人見学者に懇切な態勢が整えられたことであり、その象徴が本書の刊行である。

本書はこれまでの名品図録のように、故宮の名品を取り上げて解説するだけではない。コレクションの全体像を語り、芸術品の作られた時代を語り、管理・保存・修復を語り、ディジ

タル化を語り、メセナを語る。すでに故宮自体は、庭園を附置し、図書・文献館を設け、中国茶芸室をひらくことによつて、単なる美術館展示場から、中国芸術文化の全体を理解することのできる場所へと歩みを進めてきていた。しかし日本人は、まだまだ単なる作品展示場という認識を持ちがちである。ところが故宮のあらゆる活動を日本語で解説する本書の刊行によつて、われわれも中国芸術文化を理解する場として故宮を捉え直すことが可能となつたのである。ようやく陳列場から文明理解のための総合博物館になつたといつてもよい。

「観光」が単なる名所巡りではなく、原義のまま、国や文化の有様を知ることであるならば、故宫博物院ほど中国観光にふさわしい場所はないであろう。庭園を散歩し、お茶を喫し、展示を見る。その際、本書は大きな助けとなつてくれるにちがいない。

(本書は台湾での出版物であるが、輸入書店で購入可能) (木島史雄)